

JEMEA 活動報告

JEMEA Sympo2022@オンライン開催報告

The Report on JEMEA Sympo2022@Online



兵庫県立大学 朝熊裕介

University of Hyogo, Yusuke Asakuma

〒671-2280 兵庫県姫路市書写 2167

e-mail : asakuma@eng.u-hyogo.ac.jp

開催までの経緯 2021 年の理事会においてに 2022 年 10 月 12 日～14 日の 3 日間、兵庫県姫路市での開催が決定された。その後、朝熊裕介(兵庫県立大学 以下敬称略)を委員長とし、臼井健二(甲南大学)、岸原充佳(岡山県立大学)、桑原なぎさ(パナソニック株)、仁科勇太(岡山大学)、福島潤 (東北大学)の 5 人を委員として実行委員会を立ち上げた。その後、次年度開催の実行委員長と内定した望月大(東京電機大学)を委員に加えた。開催が決定された 2021 年 10 月から 12 月にかけて、COVID-19 の全国の新規感染者は激減しており、その間の兵庫県内の新規感染者も数えるほどであった。そのため、COVID-19 の感染状況によりオンライン開催の準備も考慮しつつ、会場として JR 姫路駅前の西はりま地場産業センター(じばさんびる)を予約して現地開催に備えた。一方で、2022 年 1 月より、感染力が強い COVID-19 の新型のオミクロン株が急激に広がり、春先にはこの第 6 波のピークは越えたものの、4 月のシンポジウムの申し込み開始時には、全国で約 30,000 人/1 日、兵庫県で約 1,500 人/1 日程度の新規感染者が継続している状況であった。COVID-19 は新型に変異しているにもかかわらず、感染症法の「2 類相当」の枠組みは変わらず、依然として多くの会社や大学などでは出張の自粛が継続していた。オンライン、オンサイト、ハイブリットと開催形式が不確定な状況を避け、前年度と同時期(8-9 月)に来ると予想された第 7 波もあり、確実にシンポジウムの準備・開催を行う必要性から、5 月末に全面オンライン開催を実行委員会にて決定した。なお、ハイブリット開催も検討したが、地方開催であり学生や遠方の参加者などが現地参加を見合わせる可能性が高く、不確定要素が増すことから見合わせた。

COVID-19 のオミクロン株の感染状況は、開催 2 か月前の 8 月中旬には全国で約 260,000 人/1 日、兵庫県で約 12,000 人/1 日を超えたものの、オンライン開催を決定していたことから混乱は少なかった。一方で、このような状況であっても、「緊急事態宣言」や「まん延防

止等重点措置」は実施されず、シンポジウム開催の10月中旬には、「全国旅行支援」「入国者数の上限撤廃」など、新規感染者が約50,000人/1日のなかでも、大幅に移動の制限が緩和される皮肉なこととなった。このように、本学会に限らず日本全国のイベントは、新規感染者数や政府の政策に振り回されることとなり、結果的に、現地開催も可能であったのではという意見も散見された。シンポジウム終了後の11月においても感染症法の枠組みの変更は未定であり、依然として、次年度以降のシンポジウムや研究会の開催方式においても難題が残る結果だと感じている。他のハイブリット開催の学会では、現地参加者が6割程度と徐々に通常開催に戻りつつあるものの、学会の規模、開催地、オンライン設備の充実度など個々の学会によって事情が大きく異なる。そのため、COVID-19の完全終息まで、いずれの開催方式でも、参加者の希望は予測不可能であり、実行委員会としても苦渋の選択であった。

シンポジウムに関する報告 参加者数及び発表件数を表1～4に示す。参加者及び発表者は過去2年のオンライン開催と同程度となった。全期間を通じて、常時7-8割程度の入室があり、2日間のシンポジウムの午前中に学会賞受賞記念講演(2件)および特別講演(2件)をそれぞれ配置し、ポスター発表および企業PRタイムも含め同日程のプログラムにしたことがよかったのではないかと推察している。特に、それぞれの受賞記念講演、特別講演が盛況であり、その後に多くの方がそのまま残って企業PRタイム(一部プログラム変更)に移行したため、昼食前ということもあり多くのかたが聴講された。

ポスター発表では、昨年度に続き、ショートプレゼン(3分)を行った。その後のブレイクアウトルームでの発表では、ポスター形式の大判1枚の資料等では、文字が細くなり見に

表1. 参加者数

	参加者数
シンポジウム	106名
ショートコース	55名
(ショートコースのみ参加)	(8名)
(懇親会)	(38名)

表2. 業種別参加者数

業種別	参加者数
産業界	47名
官	6名
学	61名

表3. 会員・非会員別参加者数

種別	参加者数
会員	91名
非会員	23名

表4. 各発表件数

種別	参加者数
特別講演	2件
JEMEA 学会賞受賞記念講演	2件
口頭発表	34件
ポスター発表	13件
機器展示企業による会社・製品紹介	3件
計	54件

くくなるため、自由形式(スライド発表や動画等あり)での発表とした。リハーサルでの案内もあり、多くの方がスライド形式の発表を実施した。

また、オンライン懇親会は 38 名程度の参加があった。学会受賞者の喜びの声、実行委員の紹介、若手・中堅からのスライド照会などを企画した。

成果と反省 過去 2 回のオンライン開催の経験、および、前週のリハーサルから、比較的スムーズに入室・発表を進行できた。また、前日のショートコースにも半数の方の参加があり、聴講者の多くは質疑応答も含め慣れてきている印象を受けた。一方、一部参加者(4 名ほど)が、シンポジウム 1 日目の B 会場に定刻の入室ができなかった。Zoom アカウント ID やパスワードに認証過程で、学会側の設定に問題があったと考えられる。関係者の方にこの不具合に関して、お詫びするとともに、改善点として次回のシンポジウム実行委員へ展開したい。

各賞授賞 研究奨励賞は 2A03 (岸本ら)、ベストプレゼンテーション賞は、2A04(飯田ら) および 2A09(福島ら)に決定した。受賞者は各賞の総得票でも高評価を得ていたことから、より公平かつ妥当な採点結果と考えられる。また、ベストポスター賞は P02(本田ら) および P09(仲川ら)に決定した。今回、ポスター発表時間では、発表が自由形式で行われたため、発表のわかりやすさと質疑応答の明解さが評価された。受賞研究以外にも、新規性や懸案事項への取り組みなど高評価の研究成果が多く、今後の研究の発展が期待できる。

今回、新たな試みとして、参加者全員に Award の審査をお願いした。また、若手の研究者の励みになるように、会社名を冠とした企業賞を新設した。2 社(エム・アール・エフ株式会社賞、安立計器株式会社賞)に賛同していただき、1A02(村ら)、1B04(鈴木ら)が受賞した。また、セッション開始前、休憩時間などにエンドレスの企業 PR スライドを、学会からの注意事項(Zoom 上の名前の変更、録画の禁止等)と合わせてホストより画面共有した。

開催御礼 本シンポジウムの開催に当たり、オンライン機器展示及び要旨集への広告出稿でご協力いただいた企業、広報にご協力頂いた協賛団体に御礼申し上げます。また、JEMEA 事務局佐藤様には、各団体や特別講師との打ち合わせ、要旨集の取りまとめ、アンケートや賞の HP 作成、リハーサルや当日の関連業務など、委員会立ち上げ時からシンポジウム終了後の会計集計作業まで非常に多くの業務を滞りなく進めていただきましたことを感謝いたします。

最後に、大会を大いに盛り上げて頂きました参加者すべての方に重ねて心より御礼を申し上げます。厳しいコロナ禍でのシンポジウム運営にあたり、不行届きの点もあったかと思うが、何卒ご寛容下さいますようお願い申し上げます。